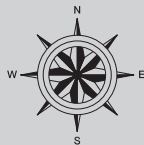


北から 南から



★この欄ではみなさまからのご投稿をお待ちしています。
★送り先=〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14 日本図書館協会
図書館雑誌編集委員会「北から南から」係
★掲載は委員会で審議のうえ決定いたします。

「図書パン」誕生のはなし

宮脇英俊

長崎大学附属図書館の分館内で販売するオリジナル菓子パンの導入経緯と商品開発にまつわる話をご紹介します。

1. 背景

長崎大学附属図書館の経済学部分館は、平日はもちろん土曜日・日曜日も開館していますが、キャンパス内にある福利厚生施設の食堂や売店は、土曜・日曜はお休みです。近くのコンビニエンスストアは四車線道路の向こう側にあり、天候の悪い日に行くには少々おっくうになる所があります。かつて利用者から館内で飲食をさせてほしいと要望があり、2018年度から持ち込み飲食を可能とするエリアを設けていました。

2020年から発生した新型コロナウイルスの影響により、対面授業の頻度が減り、オンライン授業が大半を占め、キャンパスにくる学生の姿が激減しました。図書館の入館者数もコロナ前に比べると3割程度に落ち込みました。そういう状況のため、学生の胃袋を満たしていたキャンパス内の食堂は土日に加え平日も休業することになり、売店の営業時間も短縮されました。

2021年度に、本学図書館は、「学生のための大学図書館」というスローガンを掲げ、利用者ファーストを大目標とし、入館者数増加を図るいくつかの取り組みを実施することにしました。その中のひとつに「軽食販売の導入を検討する」という小目標

を立てたのでした。そして、44品目以上が提供できる食品用自動販売機の導入仕様書を作り、はれて入札により設置業者が決まり、2022年4月から稼働開始となりました。

自動販売機で販売する商品は、菓子パンなどのパン類を7点以上、チョコレートなどの菓子類を12点以上、シュークリームなどのデザート類を3点以上、エナジードリンクなどの飲料類を12点以上、付箋などちょっとした文具類を2点以上のラインナップです。超ミニミニ無人コンビニ店の様相でスタートしました。

2. 企画

この自動販売機導入の目玉商品として、オリジナルのパンを販売しようとして企画しました。図書館で売るのでその名も「図書パン」と名付けることは最初から決めていました。どのようなパンが良いかは悩みつつも、オーソドックスで好き嫌いの少ない、誰でも食べられるであろう、あんパンを筆頭候補に挙げました。都合が良いことに、あんパンの“餡”はアイデアの“案”と音が同じですので、「図書館で図書パンを食べて、良いアイデアを生み出してもらいたい」との願いも含まれるので、あんパンがなおさらふさわしいだろうということでこれに決めました。

この意向を自販機設置業者に決定した長崎大学生協同組合（以下「大学生協」という）の担当者に相談したところ、好感触を得られたので、具

体的な商品開発へと段階を進めることになりました。

3. 商品開発

図書パンのイメージとして、関東地方の大学生協で販売されている“単位パン”のように、焼き印で文字を押したものを想定しました。焼き印が無理ならば、ビニール包装に印字するか、包装内に紙を入れる案も考えましたが、当初のイメージどおりに焼きごてを作ってパンに印を押すことで進めることになりました。

8cm大のコテで焼き印を作るための図案を大学生協から求められました。当初は○に図という至ってシンプルかつ簡単なものを考えていましたが、いろいろなパターンが作成できますよと言われたので、図書館らしいイメージを外枠で表現して、枠内に“図書”という文字をいれたデザインで考えることにしました。外枠に関しては、背ラベルをイメージしたものや、本を広げたイメージなどを、パソコンソフトを用いていくつか作成してみました。本を広げるものは図書館に限らず書店のイメージも抱かせるので決定打に欠けました。図書館で使われる背ラベルをモチーフに考えることにしましたが、背ラベルの感じをうまく表現することができず、今ひとつ図書館らしさが出せません。やはり本を広げたスタイルが一番しっくりいくようで、外枠はこれに決めました。

枠内に入れる書体に関しては、“図書”の書体を商用可能なフリーフォントでいろいろ試してみました。これまで今回のオリジナル商品にぴったりくるようなものがなかなか見当たりませんでした。そこで、習字を習っている本学の学生に毛筆で書いてもらったものをパソコンで起

こしたところ、力強く渋めでなかなか良い雰囲気になり、学生のための長崎大学図書館オリジナルパンにふさわしいものになるように思えました。

本を広げた外枠の中にその本学学生の書いた書体の“図書”の文字を入れて、あんパンに焼き印を押したイメージ図を作り大学生協に提案いたしました【図1】。焼き印の外枠と書体の隙間があまりないため焼き印を押したときに潰れる可能性があるとのことで、枠と書体の間を広げて再作成しました。また、丸いあんパンの直径が約11.5cmの大きさがあるそうで、焼き印を幅5cmサイズと6cmサイズで作成してみて、実際にパンに押し比べてることになりました。パンの生地柔らかさから幅5cmサイズが失敗が少なく押せるだろうとの判断で、5cm幅のものを採用することに決め、焼き印の完成まで1か月待つことになりました【図2】。



図1. イメージ図

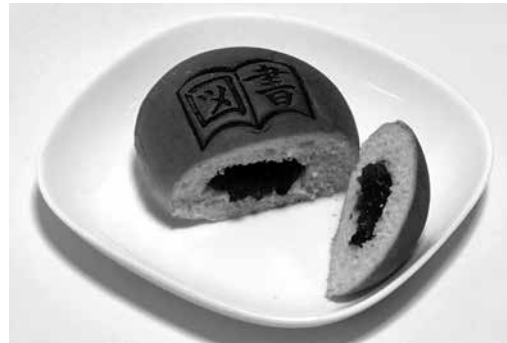


図2. 図書パンの焼き印

実際に口にする図書パンの製造は、大学生協が委託契約している社会福祉法人ゆうわ会の障害福祉事業施設のペーカリー部門「ワークショップあさひA」(<http://www.yuuwakai.or.jp/wp-content/uploads/2019/03/bakery.pdf>)が行います。このペーカリーで焼かれるパンは長崎市内数校の高校

の購買部にも卸され、おいしいと好評を得ているようです。図書パンは、そこほかの種類のパンと一緒に焼かれ、特別に焼き印処理を施して、大学生協に納品される経路をたどります。

ひと月ほどして、試作品が届きました。生地を1日寝かせて発酵させて焼き上げたもの、寝かさずに焼いたもの、パンのかたちが丸いもの、楕円型のもの、焼き印の押し加減で焦げ目の濃淡のあるものなど、パターン別に11個の図書パン試作品が出来上がってきました。それを図書館スタッフで試食してどのパターンが見た目も良く、味も美味で、図書パンにふさわしいかを吟味し、これだというものを選びました。これで図書パンの完成です。その時の光景は、テレビでよく見る新商品開発の現場さながらのようでした。



▲長崎大学附属図書館オリジナル菓子パン「図書パン」

4. 販売開始

2022年5月17日、初納品され、お昼から図書館内自動販売機で発売し、翌夕方までに初回納品分20個が完売しました。出足好調の中、大学ホームページや図書館ホームページにNEWSとして掲載しました(<https://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/news/news3619.html>)。好反応があり、その後の1週間で100個ほど売れました。教員から生協店舗には置かないのかとか、学生からは別のキャンパスでは買えないのかなど、経済学部分館限定販売のレアもの故の質問があり

ました。はじめての土日には、既に金曜日夜に売り切れだったので買えなかったと残念がる利用者の声もありました。予想外のお客様として、ネットニュースを見て買いにいられた小学生の男の子を連れた学外者の母子もいました。ふわふわな生地と、甘さ控えめな粒あんのバランスが良いと評判でした。

5. むすび

図書館に一人でも多くの学生を呼び込むための手段のひとつとして、飲食可能なエリアを設け、軽食用自動販売機を設置し、さらにオリジナル商品として「図書パン」の商品開発を行いました。それはコロナ禍で、店舗販売での密の回避と非対面販売によって感染リスクが避けられることから自販機での販売はタイムリーだったと思います。この図書パン製作に携わった、学生や障害福祉

事業所の人々、大学生協の担当者のご協力に感謝申し上げます。おかげで、図書館での滞在時間を快適に満足して過ごしてもらいたい思いと、日頃無縁の商品開発ができたことの喜びを感じつつ、各方面に図書館の存在もアピールできまし

た。学生のためにできることの努力を今後も重ねていきたいと思えます。図書館が変わってきたなあと感じてもらえること、そしてなによりおいしいと言ってもらえ、「図書パン」が愛される商品になることを祈ってやみません。一風変わった図書館としてのお仕事のひとコマの体験談が皆さまの何かお役に立てれば幸いです。

(みやわき ひでとし)

長崎大学附属図書館)

[NDC10: 017

BSH: 1. 長崎大学附属図書館]